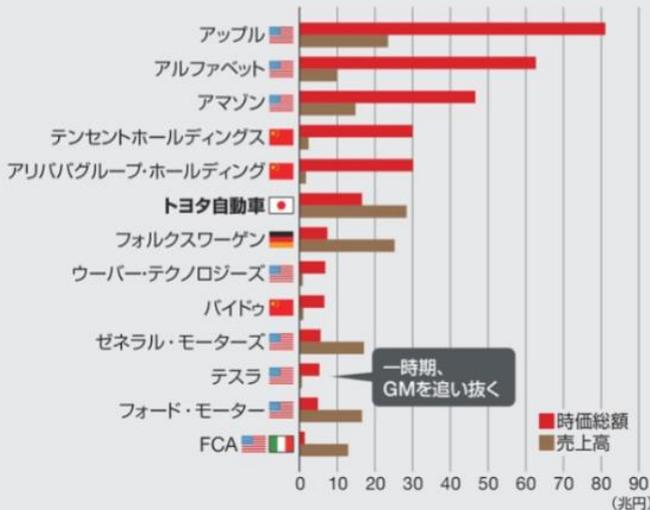


# 2017.7.13 近未来モビリティ研究会活動

## テスラについての一考察 2017.7.13 桑原敏行

テスラの2016年の販売はわずか8万台。トヨタの1/100の販売台数にもかかわらず、時価総額はGMを上回り、トヨタ、VWに次いでいる。



6兆円の時価総額



モデルS



モデル3

部品点数が多く「すりあわせ」技術が重要で参入障壁が高いと言われる自動車業界において、設立後わずか10数年というわずかな期間で成果を上げることができたのは何故かを考察してみた。

**一つの要因**は、クルマの原動力をはじめとする主要部品が、部品点数が少なくすむ電気系部品であることにより、クルマ造りを「すりあわせ」型から、部品の「組み合わせ」型に変更できたこと。

**二つ目**は、他のカーメーカーが実用性重視のEVを目指したのに対して、テスラ社ははじめから究極のスーパーカーを目指し、パワーソースといった中核技術のみにリソースを集中し、他のありふれた部品はすべて外注するという作戦をとったこと。

**三つ目**は、ビジョンを打ち上げ、期待値を高めて、株式市場からの資金をベースに、自動車業界・IT業界から人材を集め、投資の好循環を行っていること。

今後のテスラの発展のためには、「2017年発売の量販車種モデル3を品質高く生産できるかどうか」、「2017年から稼働を開始したギガファクトリーによりリチウムイオン電池のコスト低減を図ることができるかどうか」、そして「充電時間の長さや充電施設の不足といったユーザーの充電についての不満をどう解消していけるかどうか」が今後の課題と思われる。

因みに、CEOであるイーロン・マスクは、テスラ社だけでなく、宇宙開発事業会社スペースX、太陽エネルギー利用の発電会社ソーラシティ、地下トンネルで自動車を台車に載せて丸ごと移動させるポアリングカンパニーを立ち上げて運営している。パワフルな事業家である。